

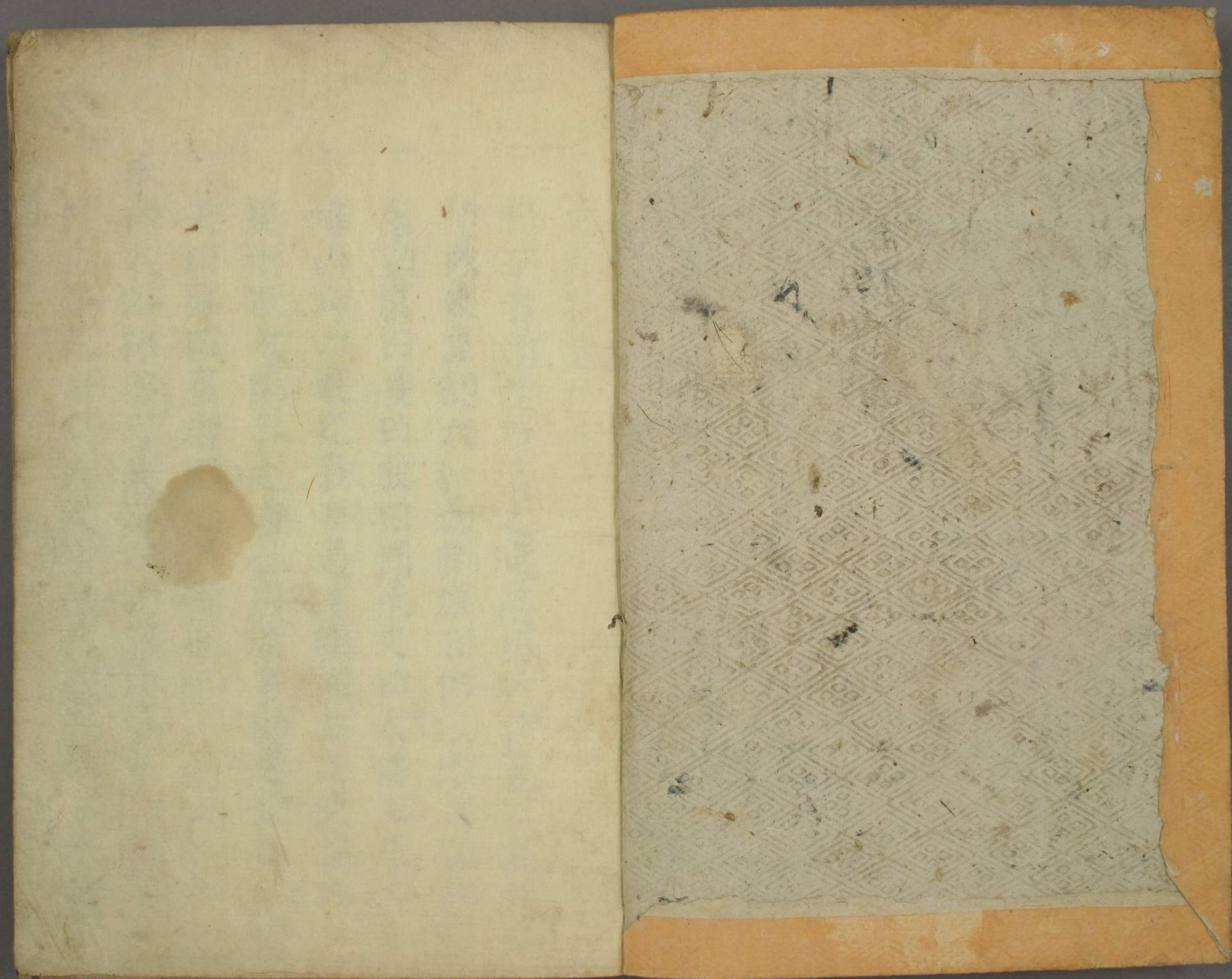


文部書

上

特別
12
5097
1





八
五〇九七
1

太和物語抄序



泰
年
年
年



日本者新羅百濟之東南民物豐阜之神邦也
神武天皇都太和乃栢原宮仍以倭為號猶曰
唐曰虞曰夏曰殷曰周范史曰太倭王居邪麻
堆山止山迹之義亦通隋朝推古之使謂日出
處則取近陽谷之義也唐咸亨初更號日本曰
大曰盛曰皇者國之美稱也

本邦之俗採善言美辭曰物語比之於嘉話叢話
語林談苑俞矣夫太和物語者花山帝之所製



也或曰在原滋春之所撰也和歌百八十餘首
皆論其人正其事述其物記其語良有以前事
之不忘後世之元龜也橘良利之隨宇多帝之
山林聖武帝之答人麻呂之風詠者君臣之道
存戒仙之哭父遍昭之思子者非父子之義乎
蘆屋之女尋男葛城之妻思夫者夫婦之道至
矣延喜帝之呈菊濟院嵯峨院之獻蘭平城帝
者兄弟之倫具矣源公忠之贈歌小野好古堤
兼輔之惜別大江千古者朋友之信盡矣實挹
難波敷嶋之遺流者誰敢不喜尚矣家父高弟
北村氏慮菴仁術之暇寓心歌林有年于茲方
今讀京極黃門之題書而披此書之典故爲之
注解也空柯無及則公翰不能以斲詎爲宋人
之遇周客乎雖有玩物喪志之警開蒙振落則
其功復不爲不多請予作序予單淺之士匪閔
此物語音序此抄而已讀者辨焉

昭陽大荒落如月日

洛陽後學源杏僊泮
毫于小廬堂之墨池

傳るに。遠春乃りありと。此ふめん事なむつる
し。みよのむらうらに。在次無と。きこゆる
の甲斐のくりに。母さのむら。かやのめれゆ
きつひちと。おひら。とよ。おりし事。
古今集。も。ま。さ。く。と。か。ら。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
と。い。ひ。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
その傳る。一条。福。同。法。師。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
花。山。院。乃。り。や。ま。と。お。は。り。の。あ。り。の。あ。り。
故。き。さ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
その。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
う。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。

傳るに。遠喜乃りありと。此も古人乃り記され
ひ。その。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
物。長。乃。り。自。記。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
ま。く。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
又。伊。勢。乃。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
は。け。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
を。も。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
に。又。彼。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
補。ひ。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
ま。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
さ。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。

法苑經序品云入於深山思惟佛道云云。
後撰集詞云一やうをさくしんやうふ
こくとつとせまふとあり延喜年中に高野
熊野ちりり法喜中傳れはそく此時
いざんのせうまへくさあだるあふとつひ
くさくちもたうりる時殿上はあつひ
あぐさりしあふれはやくはともい
まりやくがら

いざん乃りさう 備前肥前乃りあはり。
橋良利。新喜々他者。肥前國津郡大村人
也。出家号寛運。為宇多院殿上法師團

碁之堪能也。因為碁聖大德延喜十三年五月
五日碁聖奉勅作碁式獻之云云。ちりあひ
まゝのつとひ。宇多帝いさむねのあはれをさ
はるもあひりたる時乃り也。殿上人は
のわきに作せしあふとら也。猶委禁秘抄
人よまゝに流りてあふさく流る。法も
これんをくれしあつしあふとらひたるが
あひりさくあふとあひりさくあひりさくあひり
少将中ねる。これあひりさくあひりさくあひり
らあひりさくあひりさくあひりさくあひり
ちりあひりさくあひりさくあひりさくあひり

為客父蛭邊有夢到家多下畧此詩乃韻を次
 へて黃山谷五更歸夢常茶瓶一寸客愁無柰
 多慈母每占烏鵲喜家人應賦虞虞歌也
 孝りやうやうやうのひをふごう多るこ
 わごうやうやうのひをふごう多るこ
 とあつとくうよふごう多るこ
 こころあをらん實蓮大とくあつとく
 故源大納言正三位陽成院皇子母紀氏号紀君
 贈源姓天曆四年七月三日薨拾遺集并他

者也故の字んげし人の名にりうまじ
 京極乃、やとんあより亭子院の所かへつ
 まりやうやうやうのひをふごう多るこ
 所も物一えご二えごせごせり多るときこえ
 京極の、やとんあ。勸物云本院在大臣時平公女
 宇多乃らうやうやうのひをふごう多るこ
 雅明親王載明親王のうらうらう多るこ
 亭子院の所かへつ。拾遺集云也書四月九日北
 八月法皇六十乃所かへつ。京極乃所かへつ
 やうやうやうのひをふごう多るこ

つうすけの四位も成ぬきて後よありけ
まじりきのかいぬしうなりあるのいゆ
うむええれど京よりくさる人もたさき
えどある人もとどまぬりありたりま
ける人もありすともふけりあることい
きんと地りしや

野大貳。一字不違く。本勘物云。参議小野
好吉。天慶三年正月兼追捕凶賊使。正五位下左
近少将。四月又月一日四位下。少将如元。又月薨。
愚家野大貳ハ小野氏の大貳とて。参議小野
篁を野相公とつひとくひられん。す

河海云

のけんき。李部王記云。天慶四年正月十一日此日
備前備中淡路等飛驒至備前使申云賊二艘
結友從響奈多捨舟脱逃。入京。云。伊予守
亦也。從五位下藤原純友朱雀院乃。改逆を
くさす。天慶四年。孫。ある。傳。
うてりけい。此勘物。追捕凶賊使とある
事あり。禁秘抄云。追討宜旨。有。参議三關
警固。諸衛帶弓箭。追討使給宜旨。於陣邊。大外
記給其人。其人乍立給之。又召御前之時。開弓
塲南戸。參入也。只時不開之。直職事給宜旨。云々
は。此のめり。楊を保。被討。好

左にけりける事あり。あやむけり。公と
子字に禁中乃名はくをまよくまひしと
とらじ。四位よも威ぬまよとら。尚官又位の
か將の事いし。むつきののつわい。正月
召除目ののり。和階とて位をくあまのり。
しつづり。あまのり。あまのり。四位
あまのり。事なり。その好吉れうては保
く。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
治とら。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。

素乃し。あり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。

あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。

あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。

あまや乃たれこりてまのりて

はたし。昔のころもいふほど其わ

九月七日よりせよふたれは二週廻り三日

をとりよもあはれゆへありて

う九月晦日とてつくと御ちハ侍りて

これあつていふこと人延喜皇女

慶子内親王を。敷園のまに配とて中紹輝

御り侍り。いふゆへや御可御

おのころたれとていふこと

たつていふことす

たれ果といふこと

新古今

能因信

師のまのりたれあ。秋もきぬれい

御ちのまのりていふこと

かたしあつていふこと

かたしあつていふこと

かたしあつていふこと

かたしあつていふこと

かたしあつていふこと

かたしあつていふこと

かたしあつていふこと

かたしあつていふこと

かたしあつていふこと

もろーのちまふらり監命ゆれあるよ
あ

かゝるまふらりれまゝくらまおひれん
うまおひれまあじとまおひ

身たつらにあまふらりまんとまを耐あ

てまふらりまふれまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

監命ゆれあるよ
まゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まきくはくしんすまの 瀬川をわくしん
乃らくしんすまの 事代あしん 下署
名ものあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる
にやまれのあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる
とよあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる
てやまのあしり

めぐくしんすまの 感履し。あしりれはくしんすまの
陽成院乃二のしんすまの 後蔭れ中將れむとめり
あしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる
あしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる

陽成院の二れしんすまの 三品彈正尹元平親王 母主殿頭遠長女

後蔭乃中將 古今作者勅云延喜十年右少將十

二年藏人十九年四位九月中將廿一年平 中納言

有穂男。女あしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる

依子内親王 寛平才五母更衣源貞子民子之昇女

後蔭しんすまのあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる

あしりれはくしんすまのあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる

あしりれはくしんすまのあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる

あしりれはくしんすまのあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる

あしりれはくしんすまのあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる

あしりれはくしんすまのあしりれはくしんすまの 又さ少将もよめる

うきものりり人のあはれに
いそぎ今集り後人不知と入傳り家紙
註...
人のうきものりり...
このうきものりり...
とあはれに...
魚...
な...
人...
の...
ゆ...

うきものりり人のあはれに
いそぎ今集り後人不知と入傳り家紙
註...
人のうきものりり...
このうきものりり...
とあはれに...
魚...
な...
人...
の...
ゆ...

常とれあふ共事代よひをらん
といひたりつらうの事

ことあふばなれども何らんあき事れ
たされりいそふとあゆまん

こゝろあつハハ如げあつハハ
乃とあつハハあつハハあつハハ
也。貞にこゝろあつハハあつハハ
とよれ中此しあつハハあつハハ

やういふハハあつハハあつハハ
孝元皇子

彦太忍信命

此章十九代孫

本道

望行ノ賢之

童名阿古文曾

有友ノ友則

古今集撰者ノ内

故武平乃乃に三でうあたれおら。こゝろ上達
部をどおいしてまつり給て其より所あつハハ
おとあつハハあつハハあつハハあつハハ
あつハハあつハハあつハハあつハハあつハハ

武平乃の事

敦武

とてこれたれお

勳云、延長二年正月廿二日右大臣右大将如元承

平二年八月四日薨六十歳十一日詔贈右大臣從一位藤

原朝臣定方。内大臣高藤公二男。母宮内大輔弥重女

とて上事申あつハハあつハハあつハハあつハハ
同るくくとく。あつハハあつハハあつハハあつハハ

しやうおのりし

とまへしはまのりし

ひしはまのりし

いひはまのりし

うはまのりし

えはまのりし

おはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

かみはまのりし

故右京ののり宗子 勳云一品式部々本康親王
一男。寛平六年正月從四位下。又三光院後説云
光孝天皇是忠親王宗子。但兩説共王代系圖
不載之如何。ちやうじつぐさ。官位をももるあが
ひとおのりし

亭子此ののり 能保玉よりさつとて
とてまつりつたりたるを説きよん
おのりし

たきり肉ふかぬらうに
あざりにさくわちま

わが代帝乃宮おわれせきせ給ふ所はくし
しきつるともほし

うの院よよきてしすまのりく

躬恒 古傳云先祖少兒。祇註云。躬氏孫湛利男

多。又甲斐小月良高子多。愚案日本紀神代

上。天津彦根命是凡川内直山代直等祖也云。

抄云。宣賢 凡川内氏也。直姓也。古今集作者躬恒祖

神也。延喜七年正月十三日任丹波權小月後淡

路掾。又古今序前甲斐小月。院ハ字多帝也。

とちよしんこれももあきつるは月ハ

ときハあがくし 秋がくあし

とちハあつてハ常任のちし中にも秋ハ

わきてしつこのちいあつては本代も

あきよちのちあひつるちあきつる

ろくろ乃述懐くもあきつるあ月ハ抽身ヤ

いしよをらんしよ也。書代はひしよ

あるもあつてわよとちとち。頼政マの

あきよちをらんしよ也。書代はひしよ

あき

とち代のちよもにせん

つらふといおあおえずともはせん

ときよしつひつくあひひしよ

かへはるる花もさうはれちがひに
あはれしるる花もさうはれちがひに

足事乃中よしも独の屋上とて事なる
かゝるる花もさうはれちがひに

足帝乃あはれしははむとめ一系は
て系極のやとわさるはむとめ一系は
さうはれしるる花もさうはれちがひに

足帝のあはれしははむとめ一系は
とあはれしるる花もさうはれちがひに

延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の

延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の
延喜の

河をこひよんこらおひん

海乃波を下にり身とらふうら

こらおひんこと。かきまをこひんかひの

こらおひんこと。かきまをこひんかひの

うら

これごとく坊にまゐる。あはまへよきりうけを

あんせしせり。まゐるうらうら。あはまへよきりうけを

きりうけ。あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

あはまへよきりうけを

りあまがうへりてきつたれ
のぞきもさねりきつたれぬまじらぬ
あめれきつたれしよきんりて

あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて

つらり中納言れきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて
あめれぬれきつたれしよきんりて

あめれぬれきつたれしよきんりて

人乃たや乃むいやにあらねど

はく

女院のまことこれハ世系其法可なり也。新皇たるハ
ち、あれ帝を亭子院とありしと云ふ
き欤。考帝王系圖、宇多天皇乃中、ハ君子肉
親王を成乃、女院也。延喜式才六云、凡、天皇即位
者、定賀茂太神宮齋王、内親王、未嫁者ト定。若無
内親王者、依世次、簡諸王女ト定。云々、あや女、女院の
ち、あや女、ち、あや女、平城乃帝ト
内信をあらうり也。あひし、時、所、が、れ、う、と、信、行、れ
と、め、に、皇、女、を、智、子、内、親、王、を、ち、あ、め、て、女、院、ト
云、あ、ひ、し、と、云、土、御、門、院、え、久、え、後、三、子、向、代、乃

女院よりつりて、断絶、一、傳、も、の、也、
ゆき、つ、し、之、也、人、乃、こ、め、う、と、あ、り、ん、ず、た
これ、り、ち、り、ま、り、わ、が、や、と、れ、さ、し、
こ、ま、し、く、き、り、し、も、と、し、ま、れ、ま、字、り、や
又、女、院、を、あ、り、し、く、あ、り、し、も、帝、代、法、也、
て、ハ、自、由、り、ゆ、り、也、あ、り、し、ハ、ん、ま、り、し、也、あ、り、し、も
あ、り、ぬ、心、と、も、あ、れ、し、ん、愛、敬、は、お、あ、り、し、も、菊
を、し、り、し、ま、り、し、也、あ、り、し、の、法、也、一、ち、あ、り、し、
は、い、ぬ、ん、乃、法、也、事、一、
わ、が、や、と、り、し、も、ち、り、し、も、ち、り、し、も、あ、り、し、ハ
よ、う、り、し、も、き、り、し、も、ち、り、し、も、あ、り、し、も、一、や

多ふおつとむるはふよきををんむねなるや

かいつらんやまうりのぢりて

異極うかいつらとありまうり色傳を戒仙

と同人あはしとまうりつるけりはて

く別人あはれどまうり連傳よや

ふしあかてうごうさこひうりなる物ハ

うき世をうむくわがあうりたり

けやまにぬる物ハすうりてふくひきまひん

うき世をうむくわがあうりたり

秋院よりうりたり

おろそきをわきそくまをうりて秋のれだ

いりりもてうりたもあはれなるもの

目影乃うりりうりうりぬあまは公家も深き

あまうり乃うりりあはれはまはしとまうり

のまあまうりはのえさうりあはれとあはれ事

をよまうりてうりり連枝乃は中よりうり

うり連枝あはれは極よや

法が

花乃うりをうりてまうりあはれ初あはれ

うりあはれまうりてまうりあはれ

この法製衣大明益私照至公益私親乃うり

うりや延喜帝乃うりてうりて

これもうちれは

清え尾緒とよむしーこれ天子れはうしとよ

事いこれもちうめれあときまーすよわ

わづらうらうきこころをよきこころ

うしーしぬるものいづらうらうら

わづらうらハ海若とういづらうらうら

られぬるもまのうらうらぬら

陽成院うあまなる坂上乃とをうらうら

とこまらどぬんうらありけるまんなはらうら

とまらあまはらうらぬらハ

はらうらうらとをうら

はらうらうらありてあまはらうらぬら

まひうらうら申あがうらとがうらうらうら

てはうらうらえあをはらうらしとをうらうら

秋は野をわくらんまのまわがうらわ

いふまはらうらうらにおまらうら

わづらうらわとわづらうらうらまらうら

まらうら野うらまらうらうらうら

ち系乃うらむのゆきのまらうらうら

おんハくやうをまらうらうらうら

まらうらうらうらうらうらうら

のまらうらうらうらうらうら

とてやうりたり

^博様

博奕也。孟子云博奕好飲酒不顧父母之

養二不孝也。又或説トク人トクと句を切キ。供忠臣を

て佛なるを帰キ。ある人トク。賤室妻子をトク。下

去ク。為常の人トク。厭キれ佛トク。事トクも所事トクハ

此事ハ是の向トク人トク。子トクも多トク世トク幻トク母トクと控果

つる人トク。何トクに心トクをもちひトク。づらちゆトク人トクともお

もひトク。佛トク人トク。さトク。何トク。一トク。まトク。すトク。ちトク。らトク。つトク。まトク。や

志トク。きトク。りトク。去ク。てトク。ゆトク。こトク。びトク。あトク。れトク。どトク。ちトク。りトク。うトク。めトク。れ

このちトク。去ク。てトク。ねトク。ばトク。かトク。愈トク。りトク。一トク。もトク。せトク。らトク。一トク。

帰キ。ちトク。あトク。りトク。りトク。射トク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

一トク。もトク。あトク。りトク。しトク。本トク。業トク。れトク。技トク。をトク。わトク。らトク。ひトク。きトク。一トク。

集りも同じく
こゝろよりたりたりかへてそらむとめをえんとおひけ
まふにおやまごともわくちんあふるいまはるづん
たりまをとおひされぬ兼威兼威よくし。お嫁まつけ
はくへんたりまを。嫁とるまよふしんこるふ
とせよいゆふ。禮記内則篇云。十有五十五而而笄笄
二十二十而而嫁嫁有故有故二十二十三季三季而而嫁嫁
こゝろよりたりたりまをよふしんこるふ
おひけ
まふにおやまごともわくちんあふるいまはるづん
たりまをとおひされぬ兼威兼威よくし。お嫁まつけ
はくへんたりまを。嫁とるまよふしんこるふ
とせよいゆふ。禮記内則篇云。十有五十五而而笄笄
二十二十而而嫁嫁有故有故二十二十三季三季而而嫁嫁

つゆこころもいひのぐるおひけ
古今に蛙あくおへり山吹ちりにきり花れさ
りまあまも。おをこゆる細をひく
こゝろよりたりたりまをよふしんこるふ
おひけ
まふにおやまごともわくちんあふるいまはるづん
たりまをとおひされぬ兼威兼威よくし。お嫁まつけ
はくへんたりまを。嫁とるまよふしんこるふ
とせよいゆふ。禮記内則篇云。十有五十五而而笄笄
二十二十而而嫁嫁有故有故二十二十三季三季而而嫁嫁

つゆこころもいひのぐるおひけ
古今に蛙あくおへり山吹ちりにきり花れさ
りまあまも。おをこゆる細をひく
こゝろよりたりたりまをよふしんこるふ
おひけ
まふにおやまごともわくちんあふるいまはるづん
たりまをとおひされぬ兼威兼威よくし。お嫁まつけ
はくへんたりまを。嫁とるまよふしんこるふ
とせよいゆふ。禮記内則篇云。十有五十五而而笄笄
二十二十而而嫁嫁有故有故二十二十三季三季而而嫁嫁

古文前集社印

こわれしつらきとこ乃つらき

破歌し。床と屋漏無乾處。雨脚如麻未斷絶

とあり。あはれしつらきとこ乃つらき

きつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

ひまもあはれしつらきとこ乃つらき

しつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

をたりにまはれしつらきとこ乃つらき

しつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

しつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

しつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

しつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

枇杷よの。勘云左大臣仲平 昭宴男。拾政云左大臣仲

平公宅。昭宴公家。近衛南。室町東。或鷹司南東洞院西一町

わをよの。あはれしつらきとこ乃つらき

あはれしつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

あはれしつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

あはれしつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

あはれしつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

あはれしつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

あはれし

あはれしつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

あはれしつらきとこ乃つらきとこ乃つらき

いゝあされとあへおひいなるがくきつてのち
三井浦のれじまやとらふあらうらうらうらにひえ
あもれあるまもをまきつるををらんれ
まうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
とひわれもつらひ乃久きく感へもてきつてふ
あんまらるるぞんま

三井浦のれじまや 篠塚驛奥州あり

志のぼるれじまやくとまら候

きつらんじまきくありうまらるる

じまやくとまらあまら信長戸部うらまや

つまらとらうらうら

とよもでちんあきなるわらうらうらうらうら
たせとつひいなるをわらうらうらうらうらうら
にたつてわらわつひいけくあやのともよ
うらうらあきなるいあやのともうらうらうら

わらうらうらうら童殿上うらわらうらうらうら

すうらうらうらうらえの禁秘抄云近代童殿上希
代跡也まかうらうらうらえの服も長衣を乞ハ叔爵

とらうらうらうらうらうら職原抄云峯山我天皇

御宇弘仁年中初置之果朝侍中内侍等職歟下
拾枝云蔵人所在校書殿有別當左大臣一人頭二
頭人八人出納三人小舎人六人有熟イ就食年官進月奏

とひひりおれん

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

やまゆこりおれんはまゝもゝるぬり

とりにまゝもゝるぬり

きのこもれもりぬりぬりにぬり

凡れはむももぬりぬりにぬり

あまを紀伊あまの牟婁郡

あまを紀伊あまの牟婁郡

かゝた

きれぬれぬりのぬりぬりぬり

君もあまもぬりぬりぬりぬり

外と食もぬりぬりぬり

修理のきぬりぬりぬりぬりぬり

りぬれぬりぬりぬりぬりぬり

きりしつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ

あひしつらぬまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ

あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ
あはねのまへしつらぬまへ
しつらぬまへしつらぬまへ

あひ。卜定ののり。皇女をうらもひしきくさくさし
延喜式前より作りし所のてい。袂衣共中將。源氏
のちやをあらじしりやうり。松茂の歌院のこ
にあひまうし。ちをさし。くさくさ。似得。
もれうらちひらるる。流しひらよよ。

今いひまうし。ちをさし。くさくさ。似得。
かひまうし。くさくさ。似得。今
いひまうし。くさくさ。似得。今
樂し。いひまうし。くさくさ。似得。今
あり。くさくさ。似得。今
いひまうし。くさくさ。似得。今

とみんあつ。くさくさ。似得。今
中將のちや。くさくさ。似得。今
いひまうし。くさくさ。似得。今
あり。くさくさ。似得。今
いひまうし。くさくさ。似得。今
あり。くさくさ。似得。今
いひまうし。くさくさ。似得。今
あり。くさくさ。似得。今
いひまうし。くさくさ。似得。今
あり。くさくさ。似得。今

延喜皇子三品中將
太子女王源保光太子文宮
眼忌令云妻服九十日服廿日
中將宮中のいひまうし。くさくさ。似得。今

實平は皇乃孫備具してとゆるはさきまひてかく
るやのいなりまひしをよもり。うもれし山井
實平乃皇女られか。これさくもありたりと
おし。うめ服乃らちにけりたるあひさる
あき人のりしとあけしりたるよりかよ
とそらんあきけり。その中毎尔らんとの
まふる。

勸云貞信么ムヘ。歴中無而四位侍從任參議。故太
多ムヘい。此以多補任上る之勸。

亭子のここれとにもいおあきおとく大井につふ
よりまふる。そのちとらふのやまにりるく

おとありたるまふりつりつりてあきおとく
らんういもあうあるあらんまふるかあし
くせささくしつらんまふりつりつりつり
けは實平は皇太女は女の子。いげは女は具
まふりつりつりつりつりつりつりつりつり
氷。猿呼山峽。かき子歌。九首。まふるまふる。
い。らまふりつりつりつりつりつりつりつり
まふりつりつりつりつりつりつりつりつり
しつりつりつりつりつりつりつりつりつり
つりつりつりつりつりつりつりつりつり

よあるゆきまゝのうらみかきりたるぢりりされ、
おとこのCamellia

いづれもなまじ。右宮は清く女まもる。さき
のまじりしものもあつた。おまうけさ
に。毎三時。おまのまじり。おまうけさ
に。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
わきそおひれ。おまうけさ。おまうけさ

おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ

おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ

おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ
おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ。おまうけさ

濃コキ搥カイチリ練リ也。表裏紅

装束也。末摘花

ちるよあはれ事なれどもとてはるる女れんか
ちるよあはれ事なれどもとてはるる女れんか
は女ねをのこちをておとくをていふ人かたは
こいをあかしくあかしくのこちをていふ人かたは
らうよんあはれ事なれどもとてはるる女れんか
せんといふこと

るこいをあかしくあかしくのこちをていふ人かたは
は女ねをのこちをておとくをていふ人かたは
こいをあかしくあかしくのこちをていふ人かたは
らうよんあはれ事なれどもとてはるる女れんか
せんといふこと

きんのかをひらきこちをていふ人かたは
らうよんあはれ事なれどもとてはるる女れんか
せんといふこと
は女ねをのこちをておとくをていふ人かたは
こいをあかしくあかしくのこちをていふ人かたは
らうよんあはれ事なれどもとてはるる女れんか
せんといふこと

らうし月と云ふは...
あのことし...
との...
おをとり...
中真女乃...
わ...
あ...
おの...
や。老子經吾所^{コノ}以^ル有^ハ大^ト患^ハ者^ナ為^ス吾^ガ有^ル身^トと...
るれ...
も...
も...

と...
し...
ゆ...
う...
ゆ...
う...
い...
と...
わ...
秋野...
と...
と...

衛風習之谷風以陰以雨ニシテと作り。雨もよまらぬよ

もあらししコトカセとよまらぬよあらししとくも

よまれよまらぬよあらししとくもあらししとくも

僅しこの雨れするころもくくくくくくくくくく

歌をわらう人乃くくくくくくくくくくくくくく

くちやくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ゆもくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

云其雨其雨果果出日ツレニ箋云人言其雨甚雨而果

果然日後出猶我言伯且來伯且來則復不來云云云云

男をくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あまれやうんまれのちるんぐらもつられニコラス

けりてのちるんぐらもつられ物もつらりニコラス

てうんぐらもつられやうんぐらもつらりニコラス

三月乃乃まつり公事根源よ云之法も臨時祭三

月中午日賀茂臨時祭十一月酉日つる事うも祭

人あり。祇園日吉も臨時祭あれと勅使いり

まし舞人のゆはち。是ハ公平のむをめとも物

くに出るよいあれはあつちくくくくくく

むくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あまれつしとよまらぬよあらししとくも

新なく臨時祭あまらぬよあらししとくも

あつりはなすつちれいりあひ

けしつていりつていれは増すのりつてあつり

しつていりつていれは増すのりつてあつり

しつていりつていれは増すのりつてあつり

とらんまゝのりつていれは増すのりつてあつり

とらんまゝのりつていれは増すのりつてあつり

あつりつていれは増すのりつてあつり

あつりつていれは増すのりつてあつり

あつりつていれは増すのりつてあつり

あつりつていれは増すのりつてあつり

一念を生死乃きづるとあるのをおめりつて
しつていれは増すのりつてあつり
あつりつていれは増すのりつてあつり
あつりつていれは増すのりつてあつり

平院乃あつりつていれは増すのりつてあつり

平院の少房時平公室棟梁前よりほつてあつり

納言伊藤物次りつていれは増すのりつてあつり

とらんまゝのりつていれは増すのりつてあつり

しつていれは増すのりつてあつり

ころ時平公に大納言れつていれは増すのりつてあつり

とてしよをなつてはさかるといふ
秋乃やもくやうににほひん
山乃能れあなうりてくも海軍よ侍はし
とつちもさうくもいふ
けくさうりたる女あうりおとをせりてよさうり
人をまゆりやどいらくも地ありよさうり
ちきりし月のもあうりおとをせりてよさうり
けうい男乃意ゆいといふ月の中よゆいん
つひちきりし月をさうりてくも海軍よ侍はし
とらんといふさうり
これにはけく成たる女

秋風乃ころりやつても花とさき
あきさうりてをまらうりしらん
吹くに秋乃意まらうり志あうりてしんやも風
をありしといふらん中法家乃歐陽氏が秋意
賦も其意蕭條山川寂寥故其為聲也凄々
切々呼喚奮發豊草綵縹而争茂佳木葱蒨而可
脱草拂之而色變木遭之而葉脫といふけいもれ
やつてもよめるといふらんし一説風をさ
うりてけいもれとあうりてのけいもれとさうり
といふらんやつてもよめるといふらんあまがら
本意もれとあうりてをさうりてけいもれとさうり

とこきし禰しけをうかひひて。都る髪乃か
まゝのむし。まじりあてふとてくもせし。若
をもせらる。樂夫よる。鸚鵡洲よりとまらりて。其れ
歌法よきとてけり。作句よ。夜淚似真珠。双々墮
明月。借問誰家婦。詞泣何悽切。一問一露巾。低眉覓
不説とて了。うかひひける。よわ。

おつらんころろちのちぬとも
あをささささうわひしりたれ 異にかきりたれ

人乃まれをうたはる。八竟愛心之實にけ感
恨聖まれば。心よりかまひ侍久人。又公忠此名譽。
とてめりたれ。ハハとあちめり。まじり





